

富士宮市立北山小学校 古代体験授業レポート

静岡県埋蔵文化財センター

平成29年5月23日(火)

5月23日(火)、富士宮市立北山小学校を訪問し、6年生の皆さんを対象に「土器の分類」「石器(黒曜石)の試し切り」「火起こし」の古代の人々の体験授業を行いました。

特に本物を目の前にしたのは初めて、さらに触れての体験、誰も興味津々で目を輝かせて、真剣に取り組んでいました。この体験を通して古代の人々の暮らしや歴史に興味関心をもって、今後の学習に生かされることを期待しています。

◎土器分類体験



縄文土器、弥生土器、須恵器(すえき)の3つの時代の本物の土器片を直接手にとって、みんなで分類する作業を体験しました。模様や肌触りなどそれぞれの時代の土器の特徴や違いを本物の土器に触れて確認しながら、土器を分類しました。

◎石器(黒曜石)試し切り

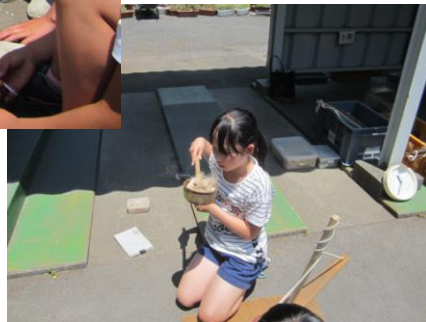


石器(黒曜石)を使って、紙や野菜を切る体験をしました。とても、よく切れたことに驚きました。昔の人々は鋭く尖る石(自然のガラス黒曜石)を探し、長野県や伊豆諸島まで出かけて行って手に入れていたことを知って、さらに驚きました。



◎火起こし体験

実際に挑戦してみると、なかなか火種ができません。火種ができて燃える炎にするには、またひと苦労、煙が目にしみてつらかった。火を手に入れるのに、こんなに苦労するとは思っていませんでした。しかし、みんなで協力し、コツを覚えると、次々と火を起すことができました。昔の人々の工夫もいろいろと感ずることができました。



◎感想発表

終わりに、授業の感想を一言ずつ発表してくれました。火起こしが大変だったこと。本物の土器に触れて感激したこと。黒曜石の切れ味に興味したこと。どれも素直な感想でした。